

さいたま川柳



さいたま大会SAYAMA IN JAPAN

願法みつる

三月、埼玉県川柳協会が「彩の国川柳大会」を無事挙行された。前年大会以降の長時日にわたる関係者のご辛苦を思う時、心底お疲れ様と労いたい。

六月にはわが「さいたま大会」も実施の運びとなる。昭和三十三年六月創設以来五十六年のわが吟社では、川柳大会も昭和四十年第一回を起点として今年が第五十回という節目である。そして我々仲間もまた、昨年以來この事業を進めるための努力を続けてきた。

一個人としては、全国の川柳吟社なる文芸組織が、何処も似たような大会を、精神的、経費的に多大な手間暇掛けて、例年の如く繰り返してゆく在り様に、思い無しとはしない。しかし一組織人の立場からは、何を吠えても詮無い、ただ戦国阿修羅の心根である。

今年の大会課題設定も、例年通り大河ドラマの題名から頂戴した。権謀術数の戦国時代を生き抜いた上下様々な登場人物の生き様は、まさに未知の明日に生きる姿であり、現代人のそれに似るものがあると思う。

ドラマの各場面における彼らの生きようとする努力、さいたま川柳大会の開催に向けて集中している仲間の生き方にも通じている。先憂後楽、まさに純粹に一生懸命である。多くのお仲間の協力と参加をお願いする。

四月号 目次

わたしの好きな句 藤 あかね	表紙
巻頭言 さいたま大会ということ	願法みつる
彩玉集——同人吟	2
古丘の世界	5
雑詠	6
映像川柳	6
七七句	6
そんなつもりで白昼夢	15
雑感「句会に思うこと」	18
私のお花見 二本の老木	20
桜を追い続けて!!	22
交替鑑賞 川柳バイキング	23
初歩添削講座「ワクワク」雑詠	24
ふるさと紀行	26
題詠 「栄 養」 須田 昭 選	30
「からから」 金子 育司 選	30
「起きる」 篠崎 智子 選	31
さいたま三月句会	33
平成二十五年通常総会報告	37
インフォメーション	38
編集さろん	3
句会案内	3
表紙(題字・清水 美江 写真・千葉 古丘)	4

平成26年

4 月号 (No.653)

日川協加盟